

令和8年度 後志地域づくり連携会議（北後志ブロック）議事要旨

日時：令和8年7月28日（火） 15：00～17：00

場所：小樽市 小樽港観光船ターミナル 多目的ホール

出席者（構成員等）

小樽市長、積丹町長、古平町長、仁木町長、余市町副町長、赤井川村長、新おたる農業協同組合長、小樽商工会議所会頭、後志総合振興局長、小樽開発建設部長

議事

- （１）地域づくり推進ビジョンの進捗について
- （２）道央広域連携地域政策展開方針の進捗について
- （３）地域課題への対応状況について
- （４）意見交換
- （５）その他

意見交換 ―後志で働く人を増やすための市町村の枠を超えた連携―

●小樽市 迫市長

人口対策として、行政としては社会減を抑制する政策に軸足を置いている。具体には、少子化対策（子育て支援）を充実することによって、若い世代を支えるだけではなく、引き続きこの小樽に住むということを選んでもらう、ということを重点的に進めている。

繁閑期を利用した人材の有効活用を実施している事例がある。

- ① マリンウェーブ小樽と赤井川村のキロロリゾートの取り組みで、冬が閑散期となるマリンウェーブ小樽は、キロロリゾートにスノーボードのインストラクターとして1名派遣、逆に夏が閑散期となるキロロリゾートは、マリンウェーブ小樽にヨットマリーナのヤード作業で1名派遣するなど、上手く繁閑を利用した人材活用を図っている。
- ② 小樽カナルボートと赤井川村のキロロリゾートの取り組みで、冬が閑散期となる小樽カナルボートは、キロロリゾートにリフトのスタッフとして1名試行契約しており人材の有効活用を図っている。

学校法人多文化共生学園が設置・運営する「おたる国際福祉・観光専修学院」が今年4月に開校。介護福祉学科（20名）と観光学科（70名）があり、90名が入学した（一期生は全員外国人）。経済界の期待も大きく、卒業後も後志に残ってもらえるように、処遇改善等を行う必要がある。

●積丹町 松井町長

官民連携及び省庁間や道庁の部局間の垣根を超えた政策連携が重要。

部長室や局長室に地域おこし協力隊や自治体の若手を入れて、意見を率直に聞いてもらいたい。良いアイデアや効果が出てくるのではないかなと思う。

国、道、自治体の職員が真剣に向き合う場を作ることが大事。

●古平町 成田町長

漁業者の担い手不足対策として、町独自に「新規漁業就業者支援補助金」を設け、就業促進に取り組んでおり、さらに地域水産物の価格向上や魅力を活かした海業の推進も図っているが、現状として十分な担い手の確保には至っていない。要因の一つとして、漁業収入の不安定さが挙げられ、安定的かつ一定水準以上の所得が見込めないことが、新規参入の障壁となっている。

水産物を羊蹄山麓方面におけるインバウンド需要と結び付け、「需要の創出」と「所得向上」を一体的に進める取り組みはどうか。

- ① 高速道路網の整備が進み、今後の整備状況によっては物流の時間短縮が見込まれ、広域的な販路拡大が現実的な選択肢になる。
- ② 水産物の実演調理イベントや食イベントを開催して、需要の掘り起しが図られれば、安定的な需要の確保となり、結果として、漁業者の所得向上にもつながり、漁業が魅力ある産業として認知され、担い手確保に資する。
- ③ 流通分野においては運転手不足という課題があるものの、流通量の増加に伴い収入の安定化が図られれば、地域を超えた人材確保にもつながる可能性がある。

●仁木町 佐藤町長

国内最大規模の「ミニトマト集出荷貯蔵施設」を整備したことにより、農作業が大幅に軽減され、生産の規模拡大が可能となり、生産量・生産額が増加し、農家経済の安定化が図られ、農業後継者や新規就農者が増加した。

平成16年から外国人技能実習生の受入れを開始し、令和5年に特定技能制度が農業分野に拡大されてからは、毎年仁木町の人口の10%に相当する300名程度の外国人人材を受け入れており、地域産業を支える重要な労働力となっている。

農繁期の異なる福岡県のJAとの間で「広域・季節補完型連携」にも取り組み、夏は仁木町、冬は九州地方で就労する仕組みの構築など、外国人人材の安定的な確保にも取り組んでいる。

管内には、農業・水産・観光、さらには、アニメやマンガを学べる学科を有する多様な高校が設置されており、他地域にはない特色ある教育資源であるため、これらの教育資源を生かし、アジアを始め、世界から産業技術、観光、さらには文化・芸術に関心を持つ、意欲のある高校生世代の若者を留学生として受け入れる仕組みを、近隣町村とともに作りたい。

●余市町 渡邊副町長

介護職員人材確保・定着支援事業や若年層を対象とした奨学金返還支援事業を実施し、外国人介護職員受入及び若年層の定住・就業促進に取り組んでいる。

後志地域は農業や漁業などの一次産業が盛んな地域であることから、札幌圏や道内の

農業・漁業等を専門とした学生を対象に、複数市町村を巡る広域インターンシップの実施が有効ではないか。具体的には従来の単一の企業で受け入れるのではなく、複数市町村が連携し農業、漁業、観光業など地域毎の特色のある産業を体験できる仕組みで、学生や海外人材に、後志全体の魅力や多様なキャリア選択肢を知ってもらうことで将来的な就業や定住などに繋がるのでは。

後志全体の企業や事業者、働き方、キャリア形成の事例を一体的に情報発信することで後志でどのようなキャリアを描けるかを学生にイメージしてもらうことも重要である。

既存の「ShiriBeshi 留学」を活用しながら、道内外の学生に加え、海外留学生やワーキングホリデー人材なども対象とした広域的な就業・地域体験プログラムへ発展させ、後志での就業・定住につなげる取り組みも有効である。

●赤井川村 馬場村長

東京都の各区で各自治体と区民の交流事業を展開していて、それぞれの区でテーマを持って意見交換会を行っており、北海道はまだ行っていないが、ある区は北海道とできるのであれば地域での交流人口を増やすということも可能との情報をもらっている。(都が予算的にバックアップをしている事業)

北後志の市町村で連携しながら協定を結んで行えば、将来的には移住ということも含めて考えていけるので、今後具体的な話をしていければ良いのではないかな。

●新おたる農業協同組合 森代表理事組合長

仁木町長の話の補足だが、福岡県の J A との「広域・季節補完型連携 (外国人)」については、福岡は 12～3 月までの大体 4 ヶ月、仁木はそれ以外の 8 ヶ月、仁木が主体的になり 8 ヶ月の労働力 (技能実習生) を雇っている。オペレーションは管理団体が行っている。技能実習生に聞くと、日本での収入は少ないが、物価が安く、治安が良いとのこと。

新規に大学生を入れるのではなく、転職したい人もいると思うので、転職サイトを活用し募集すれば、良い結果も生まれるのでは。

●小樽商工会議所 中野会頭

高規格道路や新幹線の完成により、観光客の増加が見込まれ、その観光客を目当てに移住し、起業する方も増えることから、起業したい方向けにネットワークを作成中。

後志のインフラ整備状況や観光入込状況、将来像などを発信することによって、更に投資や事業が生まれ、働く人が増える。そういう組織づくり、仕組みづくりを、今後後志地域全体で経済界、首長、国、道と考えながら進める必要がある。